定例教育委員会会議録

（令和８年６月５日開催）

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】（要点筆記）

日　　時　令和８年６月５日（金）９時30分～
場　　所　市役所２階　202会議室
署名委員　木之下教育委員、林教育委員

【 次　　第 】
○ 開　　会

○ 教育長報告

○ 議　　題
１．県教育委員会及び市教育委員会相互の人事等に関する
了解事項について【資料No.1】(非公開)　(教育総務課)
２．川岸学園　義務教育学校及び認定こども園の名称について【資料No.2】　(川岸学園整備室)

○ 報　　告
１．令和８年第３回岡谷市議会臨時会の議案について【資料No.3】　(各課)
２．おかやのまちじゅう学園化構想について【資料No.4】　(教育総務課)
３．令和７年度施設等利用状況について【資料No.5】　(各課)

○ そ の 他
・行事等について（各課）
・その他

出席委員
教育長 宮坂 享、教育委員 林 慎太郎、教育委員 轟 美緒、教育委員 木之下 美貴

事務局（説明員）
教育部長　両角 秀孝、教育総務課長 荻原 浩樹、教育総務課主幹指導主事 村松 晋、
生涯学習課長 三澤 達也、スポーツ振興課長 味澤 勝一、子ども課課長 高橋 卓、
子ども教育相談センター長 小口 高弘、生涯学習課副参事 長石 成久、
指導主事(ウェルビーイング実践校) 井出 誠一、
教育総務課 教育企画主幹 塩入 康敬、学校教育主幹 宮坂 洋平、
川岸学園整備室主幹 新村 尚志、子ども教育相談センター主幹 長谷川 智康、
子ども課 保育主幹 小口 和久、教育総務課 主事 渡辺 凱

＜会議録＞

〇開　　会

宮坂教育長　　6 月定例教育委員会を始めます。本日の署名委員は、木之下教育委員、林教育委員にお願いします。

〇教育長報告

宮坂教育長　　〇子どもたちの姿から

・ ふれあいタイムについて

5 月 20 日からふれあいタイムがスタートした。教育委員の皆様の協力に感謝するとともに、小中学生の良好な反応が目立った。見守り隊の方々が子どもたちの個々の様子を把握し、気にかけていることがとてもうれしく改めて感謝したい。

・ 小学校運動会

4 小学校の運動会を教育委員の皆様と視察した。子どもたちの軽快な動きや、体を動かして楽しんでいる様子が確認できた。保護者や地域の方々も一体となって楽しんでおり、トコトンの取り組みとして子どもたちが主体的に運動会を作り上げている場面は特に印象に残った。上の原小学校では実行委員会形式や体育の授業と関連付けながら競技が行われ、とても良い取り組みであったと感じている。

・ 中学校 1 年宿泊学習

1 年生の宿泊学習では、カレー作りや散策を通じて仲間との関係を深めたという報告があった。またこれから、小学校では満蒙開拓平和記念館での研修、中学校は中学生メッセに向けた準備も進められている。

〇生涯学習課から

・岡谷市リーダーズ倶楽部宿泊研修について

5 月 23 日、24 日の 2 日間、岡谷市リーダーズ倶楽部の資質向上を目的とした宿泊研修が塩嶺野外活動センターで開催された。当日は雨天により予定していた野外活動は中止となったが、参加者は室内レクリエーションを中心に、リーダーズ OB・OG のアドバイスに耳を傾けながら真剣かつ楽しそうに取り組んでいた。その姿からは、1 年間取り組んできた成果が表れており、子どもたちの成長が感じられた。また、例年行っている「岡谷市・東伊豆町夏休み子ども交流事業」が、本年度は岡谷市での開催となるため、受入の事前準備をあわせて行うなど、充実した 2 日間になったと感じている。

・市史編さん室より

市史編さん業務は本年度、株式会社ぎょうせい関東支社との業務委託契約を締結し、編さん作業が開始された。本年度は執筆要領、目次、レイアウトの確定、資料収集が主であり、本格的な原稿執筆は来年度からを予定している。

新たな市史の編さんは委託業者により進められるが、並行して既刊市史の補遺・補完のため、岡谷市史編集専門委員会が組織され、専門委員を中心に執筆・編集が行われる予定である。6 月 3 日には専門委員 4 名に委嘱書を交付し、執筆要領や今後の進め方について説明、意見交換を行った。

今後の予定として、7 月 9 日に令和 8 年度第 1 回岡谷市史編さん委員会が開催され、全体構成や執筆要領、目次などについて協議、意見交換が行われる予定である。

〇スポーツ振興課から

・各区対抗スポーツ大会について

宮坂教育長　　令和 8 年度「各区対抗スポーツ大会 総合開会式」が、5 月 24 日に多数の選手と関係役員の参加を得て、盛大に開催された。選手宣誓では、中学生の女子生徒が正々堂々と清々しく思いを述べ、その姿に頼もしさを感じた。この大会はスポーツ人口の拡大と体力づくりの推進を目的として毎年実施されており、本年度も 9 月にかけて全 11 競技の開催が予定されている。開会式後には卓球、バドミントン、ソフトテニス競技が行われ、和やかな雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。今後の競技についても、参加者がスポーツを心から楽しみ、地区間の交流と親睦を深める、実り多い大会となることを期待する。

・女性対象バレーボールクリニックについて

岡谷市バレーボールのまちづくり実行委員会は、新たな企画として本年度、バレーボールクリニックを実施する。これは 6 月 6 日に、岡谷市民総合体育館スワンドームで開催され、指導はプロチームである VC 長野トライデンツの選手が担当する。未経験者でも気軽に参加できる内容となっている。

このクリニックは、バレーボールの普及と、昨年度から連携協定を結んでいる VC 長野トライデンツの新たなファン獲得を視野に入れた企画である。定員 60 名に対し、本日までに 56 名の申し込みがあり、当日は VC 長野トライデンツの協力のもと、参加者にはチームグッズがプレゼントされ、トッププレーヤーから直接指導を受けられるプレミアム感のある講習会となる。

○議　　題

１．県教育委員会及び市教育委員会相互の人事等に関する了解事項について（非公開）

宮坂教育長　　議題１について、人事に関わる議題のため、非公開とさせていただき、後ほど議論したいがよろしいか。

－異議なし－

２．川岸学園 義務教育学校及び認定こども園の名称について

＜川岸学園 義務教育学校及び認定こども園の名称について、事務局より No.2 に基づき説明＞

轟教育委員　　最終的に馴染みのある名称に落ち着いた印象を受ける。その名称がどのような過程で決定したのかということも重要である。こども園には配慮し、名称をひらがなにするなどの対応を行った。いよいよ本格化していくため、また色々とお願いしたい。

林教育委員　　轟教育委員さんが言ったように、今までのプロセスについても、地域の皆様や委員会の方々、いろんな方が関わっているため、そこをぜひこれから教えていただけたらと思う。

宮坂教育長　　川岸学園 義務教育学校及び認定こども園の名称について、教育委員会として承認したいがよろしいか。

－異議なし－

○　報　　告

１．令和８年３月岡谷市議会臨時会の議案について

＜令和８年３月岡谷市議会臨時会の議案について、事務局より No.3 に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

２．おかやのまちじゅう学園化構想について

＜おかやのまちじゅう学園化構想について、事務局より No.4 に基づき説明＞

林教育委員　　感想として、非常に良い時代であると感じている。我々が小・中学校時代に「駄目」とされてきた事柄が、可能性を含めて考えられるようになっている。教育現場での取り組みが非常に楽しそうであると感じた。

岡谷ルールサミットについては、その結果をぜひ教えてほしいと考えている。中学生がルールメイキングをするにあたり、現在の校則は大人によって決められていると推測されるが、中学生の世代が何を感じ、どのように変革したいのかを、ぜひ教えていただきたい。

川岸小学校のわくわくプロジェクトは、個人的には全て実行してもよいのではと考える。このプロジェクトにおいて、子どもたちが最初からアレルギー対応なども考慮している点は素晴らしい。挑戦し、その過程や行動することの意義が最も重要であるため、陰ながら応援したいと思った。

また、トコトンが残り 2 年で終了するとのことだが、その後は別のプロセスへ移行するのか、それとも取り組み自体が完全に終了するのかをお聞きしたい。

事務局（井出）　県による指定は令和 9 年度までである。しかし、令和 9 年度で岡谷のトコトンが終了するわけではない。「トコトン」という名称は使われなくなる可能性もあるが、昨年を含めた 3 年間の取り組みがそれぞれの学校に根付き、私のような加配の者がいなくなった後も、各学校が自走できることが重要であると考えている。

林教育委員　　先生がどうしても入れ替わってしまうため、先生たちも新しい先生にその仕組みを伝えていかなければならない。そうした、岡谷流のトコトンの仕組みが継承されていくことを願っている。

木之下教育委員　それぞれの学校の取り組みを聞き、非常に魅力的で楽しそうであると感じた。自主性から主体性へという点で、決められたことをこなすのではなく、自らが考え、提案し、それが採用されることで、子どもたちの自信に繋がると考えられる。ここにまだ紹介されていない学校の取り組みについても、別の機会に知らせてもらえれば幸いである。また、子どもたちが学校に勉強や集団生活のためだけでなく、本当に楽しく通うきっかけにもなると感じた。

轟教育委員　　映像を見て、時代が変わり、学校がこれまで経験してきたものや見てきたものとは異なる形になってきていると感じた。最初のページから様々な取り組みが紹介されているが、特に制服に関して、実際にやってみることの重要性を実感した。イメージだけで考えていては分からなかった部分が、実践を通じて自分に合うものが明確になったことは非常に大切である。

岡谷ルールサミットについては、今年から始まる良い展望であると感じる。特に古い校則の見直しは、時代的にも実施すべきことである。各学校で独自のルールがあっても良いかもしれないが、市全体で見ると整合性を図るべき

轟教育委員　　部分も出てくると思うため、各学校での話し合いで、どのように決まっていくのか、どのような点が改善されるのかに興味がある。運動会についても、例として挙げられた上の原小学校の「ゼロから作る」取り組みは、これまでの競技を現代風にアレンジしたり、少人数ならではの工夫を凝らしたりしており、運動会を作り上げた時間がまさに「学び」であると感じた。また、岡谷田中小学校の 6 年生が徒競走をリレーに変更した事例を実際に見たが、校長先生のお話から、当日に向けた練習方法も変わり、苦手な子もグループで相談しながら取り組むようになったと聞き、とても良い取り組みになったと感じた。当日までの運動量も増え、良いこと尽くしであったと思う。

それぞれの分野で様々な良い取り組みが紹介されており、一見すると全てが順調に見える。しかし、事務局の立場から、このプロジェクトを進める上での課題は何であるかを知りたい。例えば、従来の「教える」という教育スタンスから変化する中で、ベテランの先生方もその変化に対応しているのかといった点を含め、現在このプロジェクトを実行するにあたって、どのような課題を感じているのかをお聞きしたい。

事務局（井出）　先生方の意識改革は非常に必要であると考えるが、私を含め、なかなか現代に合わせた変化が難しい点が課題の一つである。「昔はこうだった」「こうすべきだ」という考え方は必ずしも悪いわけではない。子どものためや、その安全・成長を考えた際の、教師の責任感や良心は重要であると考える。

かつては「こうすれば子どもの力がつき、将来困らない」と考えられ、実際にその側面もあったが、先行きが予想困難な現代において、子どもたちに最も求められるのは「自分で考え、自分で選択し、自分で判断する力」である。この力は、教師が指示するだけでは身につかない。したがって、我々教師は、先の時代を生きる子どもたちにとってどのような力が必要かという視点で、支援のあり方を考えていくべきである。

轟教育委員　　非常に理想的な学校であると感じる一方で、懸念する部分もよぎる。しかし、子どもたちの生きる力という、今述べられた話は重要な部分であると考えるため、そのせめぎ合いの中で、進めていくことが大切ではないかと感じる。

宮坂教育長　　象徴的な場面を紹介したい。運動会で教育委員の皆様と一緒に小井川小学校に行った際、3、4 年生が表現活動を行っていた。これまでの表現活動は、マスゲーム的な美しさや、動きを自分たちで考えて作る部分の良さを求めることが多かった。しかし、この 3、4 年生の表現活動を見ていると、フリータイムのような時間があり、そこではフラフープを行うクラスと、縄跳びを行うクラスがあった。縄跳びも 1 人で行うのではなく、何人かでやる集団縄跳びのようなものであった。また、自分の得意なこととしてけん玉を行う児童もいた。

みんなで動きを合わせる楽しさもある一方で、一人ひとりが好きなことや得意なことをその場で表現する、というものがあり、一人ひとりが元気に自分らしさを発揮できる活動も重要だと強く感じた。

３．令和７年度施設等利用状況について

＜令和７年度施設等利用状況について、事務局より No.5 に基づき説明＞

＜質疑・意見等＞

特になし。

〇その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

・その他

・次回定例教育委員会日程

令和８年７月７日（火）午前９時３０分から岡谷市民総合体育館を予定

11 時 15 分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第２０条により署名する。

令和 8 年 7 月 7 日

教　育　長　宮坂　享

署名委員　木之下美貴

署名委員　村上真太郎

調製職員　渡辺　凱